

- ・午後から天候が下り坂という情報で雨を覚悟の上早朝4時半前に出発した。幸い現在は天気は良い。同行は昨日のうるさい親父のパーティー(親父+おばさん4人)、若いカップル、夫婦者など7~8パーティー。アプローチの砂利道を少し歩いた後沢の登山道に取り付く。これから頂上近くの馬の背まで沢を詰めてゆくことになる。目印の赤マークに従って沢の右岸と左岸を行ったり来たりし、沢を渡る良いルートを見つけながら、時には戻って道を探しなおしたり、結構しんどく、疲れるし時間がかかる。沢の景色など眺める余裕もない。上のほうには心配したガスが出てきた。



よく見ると美しい沢の景色だ



沢を渡り行ったり来たり

- ・沢を渡るのが必死で休憩を取ることなど忘れて1時間も登りやっと下二股で休憩する。(コースタイムでは40分となっている) それからは大分要領もわかりほぼコースタイム通りで登る。



馬の背から斜里岳を望む



強風の稜線に建つ祠に一礼

- ・稜線の馬の背に出たら立っていられないくらいの強風が吹いている。  
強風に飛ばされないように注意して稜線を頂上へ向かう。  
この稜線に色々な花が咲いていて今までの疲れも吹き飛ばす。  
・やっと頂上に立つ。



斜里岳山頂



山頂から摩周湖を望む

- ・心配した天気も高曇りで時折日が差すほどで、頂上からは360度の展望が得られた。東には国後島、知床半島、野付半島など、西には屈斜路湖、摩周湖が、摩周湖は湖中の島まで見える。

・下りは上二股から熊見峠へと尾根道をとる(これが一般ルート)。熊見峠までは景色もよく花も咲いていてルンルンの尾根道だが、そこから地獄の急坂の下りとなる。歯を食いしばり諦めてひたすら下る。膝ガクガクで約30分、下二股に出た。それでも雨に降られることも無く12時前に清岳荘に戻った。

・前のベンチでゆっくり昼食をとり、今日の宿泊予定地、明日の羅臼岳の登山基地「木下小屋」へと出発。オホーツクラインを東に向かってひた走る。

・途中に懐かしいオシンコシンの滝があったので車を止めて写真撮影。

・ナビを頼りに木下小屋を目指す但ナビには木下小屋が載っていない。近くまで行って探し回ったが結局わからない。こんなところにも「知床自然センター」なる立派な箱物があり、その中にあるインフォメーションセンターで教えてもらった。

・「知床自然センター」の中には大きなお土産ブースもあり家や直人家族、恵子家族などへのお土産を購入。



オシンコシンの滝

・木下小屋は知床半島の岩尾別温泉と言うところにあった。

岩尾別温泉は知床五湖への道から右手へ入り羅臼岳の麓まで走ったどんずまりにあるが、そこには立派なホテル「地のはて」が建っている。

・木下小屋はホテルの横をすり抜けた裏側にある、明かりはランプだけの本当の山小屋。

久しぶりで山小屋に泊まる。

古くて汚いがこじんまりとして露天風呂も備えたなかなか感じの良い山小屋だ。

・2階に指定された私のスペースは4~5人用だが、今日は私一人。

・小さな露天風呂で斜里岳の疲れを癒し、清里で購入してきた野菜たっぷりのラーメンで夕食をとり眠りに着く。

外はなんとなく雨模様。



木下小屋

\* 岩尾別温泉への道に入ったところで道の左側にヒグマを発見。

無心に土を掘り返して何かを食べている。

首には首輪と発信機、一見飼い犬のようでかわいい感じ。

車中から写真に収めた。

・さすが知床、ヒグマがいる。

明日の羅臼岳がいよいよ心配になってきた。



ヒグマに遭遇

・小屋の管理人さんに聞いたら「2~3才のヒグマで、何にでも興味を示し一番危険な時」とのこと。

車から下りなくて良かった。

・小屋の前には大きなエゾ鹿が3頭現れて草を食べている。



小屋の前にはエゾシカが

[見られた花] 44種(名前のわかったもの 26種  
名前不詳 18種(草の花 13種、 木の花 5種)

- ・ハクサンチドリ ・ウコンウツギ ・サンカヨウ ・ヒメイチゲ ・ヤマブキショーマ
- ・コバイケイソウ ・エンレイソウ ・チシマノキンバイソウ ・ミツバオウレン ・チングルマ
- ・オオバナノエンレイソウ ・エゾノツガザクラ ・イソツツジ ・ミヤマヤナギ ・ゴゼンタチバナ
- ・エゾゼンテイカ(エゾカンゾウ) ・ミヤマオダマキ ・ホソバイワベンケイ ・エゾエンゴサク
- ・キバナノコマノツメ ・レブンシオガマ ・オオレイジンソウ ・エゾヨツバムグラ ・コケモモ
- ・ミヤマダイコンソウ ・チシマヒョウタンボク



サンカヨウ



エゾエンゴサク



これは何？